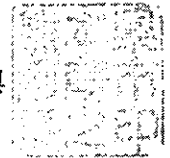


阿市建第 798 号

平成20年10月15日

国土交通省道路局長 様

阿蘇市長 佐藤 義興



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

時下、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。また、平素より地方行政についてご理解ご尽力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のありました、標記の件について別紙のとおり回答します。

今後とも道路行政につきましてご指導ご支援よろしく願いいたします。

担当者：阿蘇市土木部建設課

建設課長 塚本 武敏

TEL0967-22-3187（内線 1262）

Fax0967-22-4381

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

①道路行政全般についての改善すべき点、要望や提案など

熊本県阿蘇市

豊かで環境と調和した個性ある地域の発展と活性化を図るためには、真に必要な道路の整備を緊急かつ計画的に進めることが極めて重要であり、特に今後の道州制論議を見据えた中で、地方分権を進め地域が広域的に連携し活力ある地域圏形成を図るためにも、広域交流ネットワークの整備は急務である。

これまで道路特定財源は、緊急かつ計画的に道路を整備するための財源としての使命を担い、着実な道路整備が進められてきたが、都市部の道路整備の進展や厳しい財政状況などから、道路特定財源の見直しについて議論が進められることになった。この見直しにあたり、地方の道路整備に必要な道路特定財源の確保や暫定税率の堅持について関係機関へ強く訴えてきた結果、ようやく道路特定財源関連法案が再可決され、道路整備に必要な予算が確保された。また、政府・与党は「道路特定財源に関する基本方針」で、来年度から道路特定財源制度を廃止し一般財源化することを閣議決定した。

しかしながら、地方では道路特定財源だけでは足りず、一般財源や地方債を合わせて道路整備を行っている現状から、道路整備に必要な財源が確保されなければ地方の道路整備は遅れ、地域間格差がますます拡大することが危惧される。

道路特定財源の一般財源化にあたっては、公共交通機関が未整備な地方部にとって、世帯あたりの税負担が都市部より高い傾向にある現状を踏まえた上で、受益者負担の原則に則り地方財源の充実強化が図られるような制度設計・配分方法としていただきたい。

また、国の新たな道路整備計画において、地域間格差への対応、安全・安心の確保や国際競争力の強化の観点から、地方の道路整備を重点的に位置付けていただきたい。

②-1 地域の現状と抱える課題

熊本県阿蘇市

○現状 国際的観光地「阿蘇」を抱える本市は豊かな農林資源や観光資源に恵まれるとともに、熊本市を結ぶ沿線には住宅団地や半導体及び自動車関連の企業も多く立地している。しかしながら道路等社会資本の整備は大きく立ち遅れ多くの課題を抱えている。 ・大分市から阿蘇を経て中核都市である熊本市を結ぶ沿線地域の産業経済活動を支える生命線となる幹線道路は、一般国道57号だけである。 ・阿蘇地域と熊本市間の移動時間は通常1時間半以上、渋滞時には3時間以上かかる。 ・阿蘇から熊本市に至る一般国道57号は、沿線に国際的観光地阿蘇を有するため、南阿蘇村立野では28,143台/24h（H17センサ）もの交通量がある。 ・平成17年2月に3町村が合併し阿蘇市が誕生し、熊本県下で四位となる376平方kmもの面積を有している。 ・市全体面積のうち都市計画区域は104平方kmでありまちづくりがすすんでいない。	○課題 災害時等には交通が途絶する。実際に本市においては、梅雨前線豪雨により平成2年に一ヶ月間程度、更には昨年7月には二日間にわたり全面通行止めとなった。 地域間の連携・交流を図りにくい現状に加え、阿蘇地域における救急出場のうち46%を超える管外搬送等の救急医療や緊急搬送等への大きな課題を抱えている。 恒常的な交通渋滞が生じ、地域の連携・経済活動に重大な支障をきたしている。恵まれた自然条件を活かしつつ発展してきた産業や観光等の地域づくりにとって、現況の社会基盤整備の遅れは、今後の地域間競争において致命的なものとなりかねない。 周辺地域を結ぶ県道や幹線市道の未整備により域内交流や産業支援に重大な支障を来している。 生活道路においては歩道等の整備はおろか最低幅員の4メートルを確保されていない道路も多く、緊急車両の通行もままならない状況である。また、改良率も48%と低い状況である。
---	---

②－２、地域の目指すべき将来像

熊本県阿蘇市

公共交通ネットワークが未成熟な本市にとって、住民の生活を支える交通手段は自動車だけであり、これからの高齢化社会を迎えるにあたって道路の重要性は益々増してくると考えられる。しかしながら本市における道路整備の遅れは危機的な状況であり、今後の道路行政の行方如何では死活問題ともなりかねない。地方分権を進め地域間競争のなかで個性ある地域の発展と活性化を図るためには、真に必要な道路の整備を緊急かつ計画的に進めることが極めて重要である。

- ・地域高規格道路「中九州横断道路」の整備や一般国道５７号が４車線化されることにより、中九州地域における災害時の代替路線や救急搬送等の問題が解決するとともに、物流及び連携・交流機能が飛躍的に向上する。また、国道５７号及び周辺道路の交通渋滞が緩和され、安全性の向上が図られるほか、沿線住民の日常生活の利便性が改善され、地域経済の活性化につながる。さらに九州縦貫自動車道及び東九州自動車道等とのネットワークが図られ、九州循環型の幹線道路網を形成し熊本・大分両県更には九州地域の一体的浮揚・活性化が図られる。
- ・周辺地域と連絡する国県道の幹線道路や幹線市道については住民の利便性、安全性、地域の活性化のために早急な整備を図る必要がある。
- ・住民に最も身近な生活道路の整備は、コミュニティ空間としての機能を生かしながら計画的に整備を進めていく。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

熊本県阿蘇市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・国際競争力の強化のための交通サービスの向上	循環型ネットワークを形成し地域の交流連携を強化する道路の整備（地域高規格道路「中九州横断道路」などの質の高い道路の整備）	道州制を見据えたなかで、九州の中核都市である熊本市と大分市を結び、九州循環型ネットワークを形成し九州の一体的浮揚活性化と交流連携が図られる。 また、広域幹線機能の確保により安心して暮らせる国土づくりと、個性ある地域の発展につながる。	
・地域活力の向上	地域活性化や物流のため地域を結ぶ道路の整備（国道５７号の４車線化をはじめとする幹線道路の整備） 地域の情報発信や都市住民と地域住民の交流及び産業振興を支援する施設の整備（道の駅等休憩交流施設の整備充実） 通勤や通院などの地域住民の日常生活を支える生活幹線道路の整備（阿蘇市幹線道路及びそれに接続する幹線市道の整備）	国道５７号等の幹線道路の恒常的な渋滞の解消と、地域住民の生活及び緊急搬送の管外搬送や救急医療等の問題が改善する。 域内滞留が進むことで地域づくりと産業振興を支援し、地域の情報を発信するとともに、都市住民と地域住民の交流が促進される。 町村合併後の地域内の交流の円滑化、利便性向上が図られる。	
・良好な生活空間・自然環境の形成	安全安心して暮らせる生活道路の整備（緊急車両が通れない道路や歩道の整備） 既存の道路施設の改善（老朽化する道路橋梁の改善整備を行うための財政支援）	生活道路の拡幅や歩道の整備により、緊急車両の通行や、児童生徒の通学など安全で安心な生活ができる。 適正な管理により施設の長寿命化が図られ、安心した生活が送れるとともにトータルコストが削減される。	